

議長（門 瀧雄）

これをもって8番 古川議員の質問は終わります。

次に12番 渡邊美喜子君。

議員（渡邊 美喜子）

おはようございます。

12番 渡邊美喜子、一般質問をさせていただきます。

1点目は、学校・園施設の耐震化についてであります。

先日、文部科学省が公表した公立学校施設の耐震改修調査によりますと、県内小・中学校の耐震化率は93.7%で、全国平均が88.9%を3年連続で上回っております。また、幼稚園は89.9%であります。県内小・中学校1,092棟のうち、耐震補強の済んでいない施設は69棟で、平成27年度には100%に達する見込みであります。そこで、多度津町の平成24年度末における耐震率は、小・中学校で85%、幼稚園で85.7%となっており、今後は、中学校校舎、体育館の新築、多度津、四箇幼稚園など、耐震補強工事が進むことにより、安心・安全な施設整備ができることは大変にすばらしいことであります。

しかし、白方小学校一部校舎については、他の校舎に比べ築年数が古く、施設自体の老朽化も目立つことにより、改築により耐震化の確保を図りますと明記されています。児童の安心・安全な学校であるためにも、早急に取り組むべきであり、子供たちの命を守ることは、設置者である町の責務であります。

国においては、施設整備基本方針が改正され、I s 値が0.3未満の校舎、耐力度調査が4500点未満であることが国庫補助事業の対象となっています。

白方小学校の改築による耐震化の確保を緊急に計画していただきたい。子供たちは、多度津町の宝であります。災害時の避難所は小学校で、地域防災の観点からも重要であります。子供たちの命、地域を守ることです。町長のお考えをお聞きします。

2点目は、瀬戸内国際芸術祭 i n 高見島についてであります。

10月5日から11月4日までの秋会期には、来場者が2万4,371人という予想以上の大盛況でした。島民の方からは、島が揺れる、島が沈むのではないかといいほど、かつてない元気をつくり出したと思います。「生まれ育った高見島が芸術祭のおかげでにぎわい、関係者の方々には大変感謝をしている」、「3年後も開催をしてほしい、今回で終わるのはもったいない」、「今後は島でのイベントをしてほしい、多度津町の活性化になるのではないのでしょうか」、「ボランティアの組織があるのなら参加をしたい」、「3年後開催をするなら、もっと多くの島おこし団体が必要ではないのでしょうか」、「島の魅力を引き出したアート作品に感動した」など、多くの皆さんから好評をいただいております。この成功の裏には、多くのご苦勞があったと思います。

それでは、質問をいたします。

特に環境整備に関して、今後どうするのか、3年後の瀬戸芸の実施計画の予定について、ボランティア隊について、町のお考えをお伺いいたします。

以上です。よろしくお願いいたします。

町長（丸尾 幸雄）

渡邊美喜子議員の白方小学校の耐震化についての質問にお答えをしてみたいです。

現在、学校施設のうち、白方小学校の教室棟について耐震化が実施されていないことは、議員ご指摘のとおりでございます。今後、10年から15年のうちには、町内全ての学校施設の更新を進めなければならない時期が来ることは明白であります。それ以前に白方小学校に通う児童の安全を確保するための対策を喫緊の課題として取り組む必要があります。改築方法も含めた費用対効果を町全体の財政動向も見きわめる中で、今後議員皆様へのご相談はもちろんのこと、あわせて執行部内でも早急に協議を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願いを申し上げて、簡単ではございますが、答弁とさせていただきます。

もう一つの質問に対しましては、担当課長より答弁をさせていただきます。

産業課長（岡 敦憲）

おはようございます。

渡邊議員のご質問のうち、第2点目の瀬戸内国際芸術祭 in 高見島についてお答えいたします。

まず、議員の皆様方には、大変お忙しい中、鑑賞作品の受け付けを行っていただき、深く感謝いたしております。ありがとうございました。

6月議会で、島の方が「よかった」、「元気をもらった」と感じていただければ成功としたいと答弁いたしましたが、先日も島の方々からそういったお言葉をいただき、安堵しているところであります。

さて、まず環境整備の今後についてですが、港入り口の作品「シールーム」のところは、以前花壇であったため、作品の最下部の瓶を残し、周りは再度花壇とすることといたしました。ここにつきましては、さざえ隊の代表である西山市朗さんからの申し出があり、チューリップを植栽していただけたとのことでした。

また、当初の予想以上の方が来島し、予想以上のにぎわいとなった高見島ですが、それに伴って、数カ所の修理を含む整備が必要な箇所が見られます。このため、瀬戸内国際芸術祭関連での整備として、3月末までには数カ所整備しようと考えております。

次に、3年後の芸術祭の実施計画予定であります。

今回は、京都精華大学の方々と野村正人さんの作品合わせて12作品と堀川久子さんたちのイベントで島などで盛り上げていただきました。皆さん、当初から高見島に今後ともかかわっていきたいとお思いの中で作品を制作していただいております。先週も、京都精華大学の作家さんと今後の高見島での作家活動をいかに展開、継続していくかについて話し合いを持ちました。皆さん意欲的で、安心したところであります。

先日の県議会経済委員会で、来場者が前回よりも13万人ふえたこと、あるいは県内経済効果が132億円だったことが発表されましたが、答弁の中に、次回も開催することになれば、課題や連携方法などを検証し、より効果的な運営に当たりたいとのコメントが報道されました。町としては、開催参加も視野に入れながら、また次回参加する場合、芸術祭に参加するための負担金、芸術祭をスムーズに開催運営するためのスタッフの賃金、さらなる環境整備費などで今回よりも相当の負担額が予想されることから、この財源をいかにして生み出すかも検証しつつ、今後のあり方を検討していきたいと考えております。

次に、ボランティア隊についてです。

開幕前の海浜清掃を含む、島の環境整備に携わっていただいた支援協議会、実行委員会の方々、いこいの家における茶がいさんの接待では、渡邊議員の呼びかけで集まっていた、島出身の方を含む、数多くの仲間の方々や仲善教育会の方々、また島の方による個々の家などでのお茶、コーヒー、茶がいさんなどの接待、花壇づくりのためにわざわざ運搬、設置に携わっていただいた笠田高校の先生や生徒たち、花壇整備や道案内を行っていただいたさざえ隊の方など、多くの方に支えられた芸術祭でありました。今後は、これらのボランティアの方々には、それぞれの地域でボランティア活動を継続していただいたらと願っております。

以上、渡邊議員の瀬戸内国際芸術祭への質問について、以上と考えております。ご理解賜りますようお願い申し上げ、答弁とさせていただきます。

議長（門 瀧雄）

以上で渡邊議員の一般質問に対する答弁は、町長、担当課長からありますが、渡邊議員、再質問があればお受けいたします。

議員（渡邊 美喜子）

ご答弁ありがとうございました。

白方小学校の耐震化につきまして、実は小学校へ行ってきました。そして、ずっと見てまいりましたが、はや廊下にひびが入ってるんです。これは、一日も早い、子供たちの命を守る、また地域の皆さんの命を守るということで、本当に考えてもらわなければならないと、私はつくづく。ひびが入っている状況が廊下至るところでございます。改築すべき点は、一日も早くということで願

っておりますし、地域の皆さんも、本当に白方がどうしてできんなど、金が要るんな、予算の関係なとかというお話も聞いておりますが、町を挙げて、今先ほど町長さんのご意見の中に、やっていくというようなニュアンスございましたので、それをできるだけ早くしていただきたいなというふうに思っております。一度小学校のほうへ、廊下を見ていただければ、本当に老朽化がひどいなというのは目に見えてわかると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、瀬戸内芸術祭、本当に皆さんお疲れさまでございました。

最初は、島の方からご意見聞いていましたら、静かにしとってつかない、いろんな人が来たら島が本当に大変やから、鍵もかけないかん、不審者がいつ来るかわからん、ごみも捨てられるかわからんという意見等も聞いておりました。それが、瀬戸芸をしたおかげで、マナーがすごく皆さんよかった、そして職員初め、地域のボランティア隊も本当に一生懸命していただいたということで、島の人には感謝しております。しっかりと、島出身である議員さん、皆さんにお礼をおっしゃとってくださいということも聞いております。

それから、瀬戸芸のおかげかも知れませんが、島の竜王山、登っていく人が大分ふえております。その中で、木が倒れとったり、台風等で道がなかなか上まで行けない、足元が悪い、危険であるという部分でお話を聞いていましたところ、それも早急にしていただいたということで、本当に感謝しております。それでも、ついでするので、1点、竜王山まで上がるところに、目印、看板等がちょっとないものですから、そういう部分があればということも聞いております。その点もよろしくお願ひしたいと思ひます。

さざえ隊のことも、小川議員さん、村井議員さん、それから私も含め、議長も含めてなんですけども、さざえ隊の活動の中で一緒にさせていただいておりますが、本当に皆さん一生懸命高見島の応援団ということで頑張っております。また、瀬戸芸が終わった後も花壇づくりということで行かれておりますので、この応援団をもっともっとふやしていただければなというふうに思っておりますし、あれから後、二、三人の方がふえております。いい傾向かなというふうに思っております。どうかまた、3年後にはしっかりと私たちも、皆さん、当町を挙げて頑張りたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

議長（門 瀧雄）

答弁はよろしいんですか。

議員（渡邊 美喜子）

はい。